

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091300089
法人名	医療法人 社団誠仁会
事業所名	グループホームめおといわ (ユニット名 はなみずきⅡ)
所在地	福岡市城南区松山2丁目8番3号
自己評価作成日	平成25年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者がスタッフにさりげなく見守られている家庭的な雰囲気の中で生活が送れるように支援、職員は研修に参加し、認知症について正しく理解ができるように努めている ・地域との結びつきをつくり、地域で貢献できること、職員・入居者が少しでも地域活動への参加するように心がけている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成25年2月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) ○	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) ○
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38) ○	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) ○
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) ○	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) ○	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) ○	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) ○	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人が入居者様の身になって介護サービスを提供するを理念としてスタッフ全員のケアの方向性が同じとなるよう出勤時、唱えるよう目に付くところに掲示している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩、買い物の際に地域の方と顔なじみの関係を築いている 町内会の祭りや行事に参加し、交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や、支援の方法、実践している知識などを地域の方々からの相談には、積極的に取り組むよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催している 互いに情報交換することで、地域との交流が深まり支援も強まっている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば電話等でその都度相談や確認を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修や勉強会ですべての職員が正しく理解し、身体拘束、言葉による抑制をしないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、その内容を他の職員に伝達するよう徹して理解できる環境づくりをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や勉強会等で全スタッフが理解出来るように環境作りをしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族に契約時「重要事項説明書」で具体的に説明している そのときに不安や疑問に対する相談を受けている入退去の不安を少しでも軽減する為、相談やアドバイスを密に行い十分な理解と納得が得られるよう努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常より家族に要望、意見等を話しやすい雰囲気作りを心掛けている 家族の意向はケアに反映する体制をつくっている		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにおいて、運営上の問題点や改善してほしい点を挙げてもらっている すぐに改善出来る点はその場で決定しその後は進捗状況を確認しながら改善している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6か月ごとに、個人面接を行い目標や困っている機会を設けている。個々の職員に応じた労働環境作りがなされており、産休や子育て期間中の職員に対し柔軟なフォローが出来る 又資格取得に対するバックアップ体制もある		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	社会参加や自己実現の為にバックアップ体制がある 採用に関しては、性別年齢による排除はなく、人柄、性格、グループホームに向いているかななどを考慮する		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	現場で常に入居者の人権を尊重することを指導している 言葉づかい、態度、接し方などにも反映するような勉強会を定期的に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を多く確保している 一人一人の力量に応じた育成がなされており、外部研修は勤務扱いとなり職員育成に積極的である		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は定期的に他事業所の職員と情報交換会に参加している 又運営推進会議にも相互参加をしながらネットワーク作りの構築を図っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	身体面の課題や生活歴からの情報加味しケアの状態など客観的に捉え、不安や要望に応えられるよう関係作りに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時やケアプランの説明時、日常生活の報告、今後の家族の要望等、聞き入れ主治医とも連携行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までサービスを受けていた事業所や病院などからの情報提供を基にアセスメントを行っている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの支援を考えて接している相手のペースに合わせ入居者の視点に立ち今何をすべきか考え接している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が「家族であり続ける」事を支えていけるよう、ともに力を合わせ支える事が大切である イベント実施する際、家族に声を掛け参加してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に自宅で過ごされる際、ご近所の方と挨拶を交わされたり買い物に出かけている		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の状態を考え距離を置いたり、交流出来るようスタッフが間に入り支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に行かれた方を様子伺いに会いに行き、その家族と相談を受ける関係が続けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者から思いを発信できる方だけではない為、面会に来られた家族へ日々の様子を話し、今後の希望とを聴いている 月1回のカンファレンスで情報を共有し、入居者の意向に添うようプランを立てている		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族からの生活歴等情報を提供していただいたり、面会の際、家族へ思い出の場所など尋ね情報収集し今後のケアにつなげられるようにする		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の関わりから一人一人の出来ることできないことを見極め、入居者が安心安全、快適に過ごしていけるよう心掛けている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて職員の気付きや意見をケアプランに反映させ、入居者、家族の楽しみや思いを介護計画作成に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の生活状況、身体心理状況が誰でもわかるように客観的に記録するよう心掛けている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の変化時は、近隣での買い物、散歩家族との急な外泊や外出、入院の準備などその時々事情に合わせて柔軟な対応を行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、参加していただいたり(夏祭り、小学校バザー、もちつき)地域と親交を深め、入居者が地域の一員として受け入れられるよう一助している 運営推進会議でも地域の方参加していただいている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の松山診療所が同法人であること、連携の病院であることを説明、家族よりそのことが安心につながると契約している 2週間に1度の訪問診療で入居者の体調管理をおこなっている		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での気づきや身体、心理状況を職場内の看護師に報告している 看護師より医療機関と連携し指示を得ている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護添書 生活状況を記入し連携を図っている 退院時は入院先のカンファレンスに参加したり、面会に行き食事状況等の情報収集に努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、看取りについての考えを家族に尋ねてはいるが、身体状況が変化する中で家族も戸惑いや、最初の意向と変わるためその都度相談して決めることを伝えている スタッフ間でも勉強会を行い看取りの指針について話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を定期的実施している 勉強会で、急変時の対応や応急手当の方法を実践的に学んでいる 連絡網を作成し緊急時体制作りは出来ている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(1回は夜間を想定)防災訓練を実施 防災委員会があり、役割担当を決め動ける体制づくりは出来ている 地域の方にも運営推進会議を通してお願いをしている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者の立場にたってわかりやすく丁寧な言葉で接し、入居者のペースに合わせ見守り寄り添うケアを行う		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思決定、表現を尊重し、ゆっくり落ち着いた時間を設け、話やすい環境づくりに心掛けている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、一人で過ごしていただく時間、入居者皆と過ごしていただく時間を設けているが、本人の希望で一日の過ごし方を決めている訳ではないため、今後どう過ごしたいか尋ねていければよいと思う		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、口腔ケア後整容をするよう見守り介助をおこなっている イベントの時は、普段着ではなく外出着に着替え口紅をつけたりと、いつもと少し違う雰囲気づくりをこころがけている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは一緒に行っていないが、配膳や後片付け、おやつ作りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	セントラルキッチンよりカロリー計算された食事が届いており、嚥下状態により刻み食、ミキサー食等行っている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、口腔ケアを実施している 歯科受診が必要な方は、連携している歯科に訪問診療を依頼している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、状態が良ければリハビリパンツから布パンツに交換したり、定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水の訴えがない方に対しては、水分補給の声掛けを行っている それでも受け付けられない方には、好きな飲み物を提供し工夫をしている レクリエーションで足上げ運動を実施している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の好きな方、嫌いな方があり声かけの工夫をして一人一人ゆったりとした気分が入って頂けるようにしている どうしても入って頂けない時は、時間をずらしたり、次の日にはいっていただいている		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の為、日中のお昼寝タイムが必要な方が多く、ソファでテレビを観ながら休まれる方、自室で休まれる方、その方に合った対応をしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	複数のスタッフで声出し確認や、チェックリストで誤薬、服薬忘れの防止に努めている 薬の効果や副作用については、訪問診療時に医師に確認、報告を行い指示をうけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	幼少期の頃やその時代背景などの話を聴く中で、好きな食べ物や楽しんでいたことをレクリエーションに取り入れ行っている 入居者が住んでいた周辺を散歩したり、ドライブをして思い出していただく 役割として食器洗い、洗濯物たたみ等行っていた		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日中は、散歩に出かけたり屋上で過ごすようにしている 自宅へ戻りたいとの希望があれば家族に伝え協力していただいている		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かることなく、家族の協力の下、必要な物に関しては持参していただいたり、スーパーでの買い物するときは、施設での立替となっている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は、電話使用の際不都合が起きないようにしえんをしている 電話をかけたいと言われる方には、速やかに対応している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、入居者の方と一緒に清掃を行ったり、リビングや玄関には、季節の花や飾りで季節感を味わっていただいている 西日の強いため、カーテンを利用して遮光をしている		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの空間とテーブルの空間があり、どちらでも好きな場所、好きな椅子へ座ることができるようにしている 入居者同士コミュニケーションが取れるようにしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に、ご自宅で使用していた馴染みのものを持ってきていただき、入居者、家族の希望に添った家具の配置を一緒に考え落ち着ける環境を作っていく		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の部屋番号、ネームプレートをわかりやすく表示している トイレマークも大きく表示、廊下等ほとんどの場所に手すりを設置している		